

令和3年度「関係人口創出・拡大のための中間支援モデル 構築に関する調査・分析業務」

業務実施報告書 (概要)

2022年3月2日

団体名：一般社団法人熱中学園

1.事業概要・スキーム図

コロナ禍、地方で実施している‘大人の社会塾’「熱中小学校プロジェクト」はハイブリッドの授業参加を首都圏の生徒に提供できる体制が確立した。

首都圏から学びをきっかけにしてインターンシップにつなげることを個人ベースから企業と行うほか、地方ならではのデジタル化の流れを創ってゆく。

1. 首都圏の企業を巻き込んでサステナブルキャリア研究会を実施し、地方でのインターンシップ事業である‘ふるさと見つけ塾’を企業と推進する。

2. 地方ならではのユニークなLocal-DXを推進する。

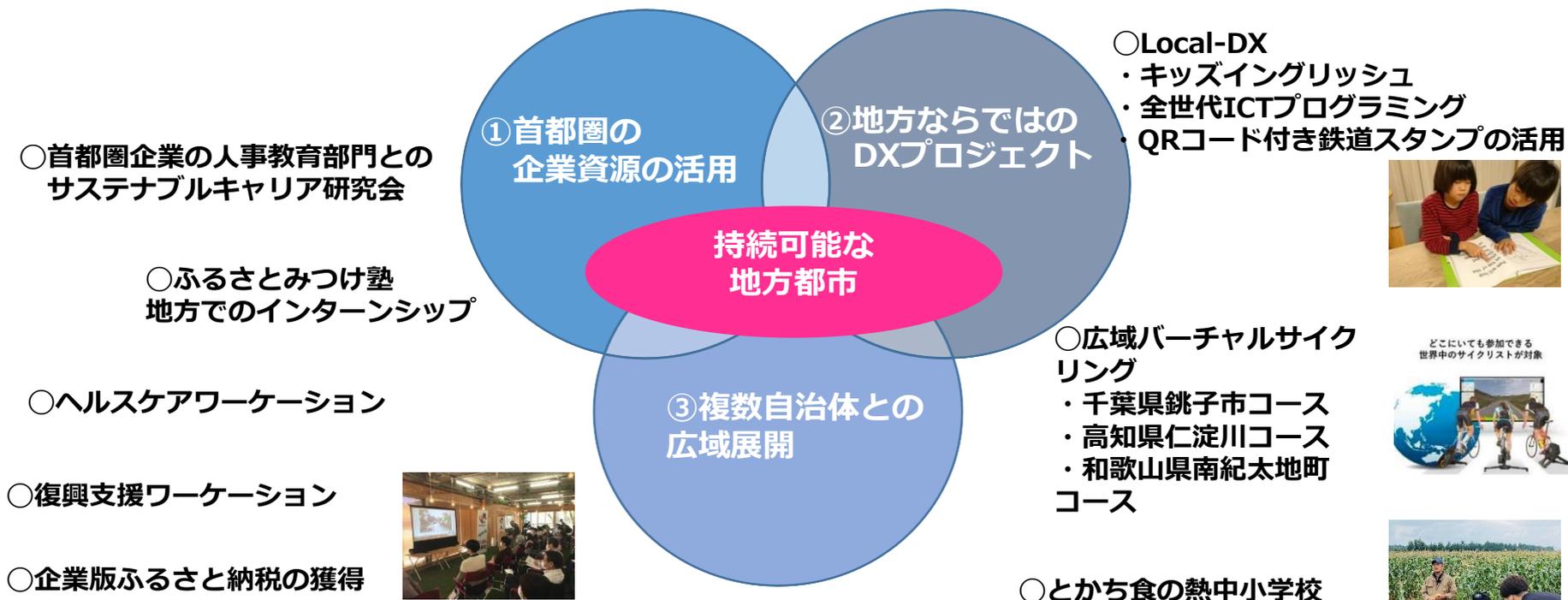
3. その活動を複数の自治体と広域展開を計っていく。

以上の取り組みによって「持続可能性のための広域展開プロジェクト」を推進する。

OUR TEAM

一般社団法人熱中学園

北海道芽室町ほか十勝地方・宮城県丸森町・山形県高畠町・千葉県銚子市・富山県高岡市・和歌山県上富田町ほか・鳥取県琴浦町ほか・山口県萩市・高知県日高村ほか・熊本県人吉市・宮崎県小林市・鹿児島県肝付町ほか・沖縄県沖縄市・全地域熱中小学校事務局
《協力》 Dialogue for Everyone株式会社・公益財団法人とかち財団



2.活動内容

①首都圏企業活用ーサステナブルキャリア研究会

都市部大手企業人事部門との協働

オンラインセミナー「人生100年時代、7割のミドルシニアの行動を変えた地方インターンシップ研修とは」

5月 申込103社、参加92社
11月 申込127社、参加83社

サステナブルキャリア研究会参加企業

- ・(株)内田洋行
 - ・花王(株)
 - ・サツドラホールディングス(株)
 - ・トレンドマイクロ(株)
 - ・日清食品ホールディングス(株)
 - ・日本ゼオン(株)
 - ・日本ベーリンガーインゲルハイム(株)
- (※50音順)

アウトカムと課題

令和2年度から1年半に渡り継続している「ふるさとみつけ塾」参加者は、熱中小学校やインターンシップ先での活動の継続により、地域との関係を継続し、更に移住や地域での新たな職を得ている。熱中小学校の受講継続 8名
インターンシップ先との活動継続 4名
地方へ転職 2名

サステナブルキャリア研究会では「ふるさとみつけ塾」への社員派遣が決定となり、実際に参加7社 中3社4名の派遣を得て有償、自走化の目途をつけた。今後は地域を絞りインターンシップ開拓の仕組みを構築したい。

事業成果・KPI達成状況

参加企業数 7社 (5社)

研究会・ワークショップ等開催 6回 (6回)

上記2延べ参加人数 254名 (300名)

参加企業による十勝視察



参加企業社員のインターンシップ挑戦



企業と人材 8月号

ミドルシニアのキャリアデザイン



②首都圏企業活用ーヘルス케어セッション

ワーケーションを付加価値型にする試みとして株式会社内田洋行ネットワークビジネス事業部8人は山形県高島町で「仕事主体」で、プロジェクト業務としてメンバーと一緒に共同業務及び日常の個人業務と森林浴の効果を計測した。

期間：2021年12月8日(水)～10日(金) 2泊3日参加者8名の前後の各3日間体調の検査測定を行い、その差を分析した。

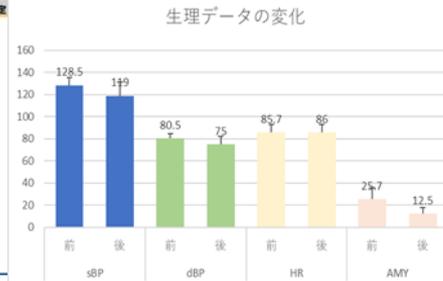
ワーケーション先：山形県高島町

- 目的：①リアルコミュニケーションの可能性追求と 社内プロジェクトへの取り組み
②ヘルス케어セッションの実証実験
東北医科薬科大学住友和弘准教授

アウトカムと課題

ヘルスケアと観光の組み合わせの有効性を証明。全国各地で実行可能にするため首都圏や地方医大提携へ展開が今後必要である。実績とブランド力をつけたプログラムに成長させたい。

日	東	東	東	東	東	東	東	東	東
12月8日	測	定	測	定	測	定	測	定	測
12月9日	測	定	測	定	測	定	測	定	測
12月10日	測	定	測	定	測	定	測	定	測



ワーケーション 心身にどう影響
高島・熱中小学校で実証実験
「教職員研修などを地道に」
山形県高島町、熱中地区の企業と連携し、ワーケーションの実証実験が行われた。参加者は、仕事と観光を組み合わせた活動を通じて、心身の健康を維持し、地域との関係を継続し、更に移住や地域での新たな職を得ている。

2.活動内容

③首都圏企業の活用—災害復興地ワーケーション合宿

期間：2021年10月22日(金)～10月29日(金)

参加企業：川崎重工行株式会社 本社マーケティング本部企画部
3名（場所：人吉市まち・ひと・しごと総合交流館くまりば）

川崎重工行株式会社様にとっては、はじめての地方でのワーケーションの実験として取り上げて頂いた。災害からの教訓を学ぶと共に、参加者同士のチームビルディングを高めることができた。新型コロナウイルス感染症により観光がストップしている中、事業再建に向けて動き出しつつある事業者の応援も併せて行った。

アウトカムと課題

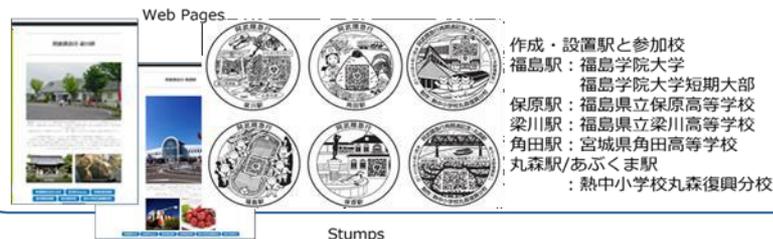
参加者に人吉市出身者が居たことで、会社としても継続的なワーケーションプログラムとして継続する。本社部門として人事部門、CSR部門との連携に進むことが決まった。

④Local-DXの推進—QRコード付き鉄道スタンプ

阿武隈急行丸森駅、あぶくま駅(無人駅)のQRコード付きスタンプに加えて有人4駅のスタンプを、地元の高校・大学生の手による原案から制作した。各デザインに組み込まれたQRコードより、各駅及び観光情報などのリンクを掲載したWebページに柔軟に飛ばすことができる。3月20日の熱中小学校丸森復興分校が丸森町と行う'復興音楽祭'で阿武隈急行をQRコードと共に盛り上げていく。

アウトカムと課題

既に鉄道スタンプに関心がある訪問者は増えている。スタンプは阿武隈急行の管理で今後も各駅でのイベントに利用される事になっている。地方の鉄道はインフラとして関係人口構築上利用できるインフラである。今後各駅でのイベントの告知、鉄道切符との連動など自治体をつなぐ地方鉄道復興活動があり、地元の学生の参加は意義があると考えられる。



企業版ふるさと納税の獲得

企業版ふるさと納税は、制度の理解を図る節税シミュレーションのEXECLを準備して行った。活動全体を通じた企業版ふるさと納税の目標4社を達成した。

- (株) 内田洋行 北海道芽室町
- (株) ケイズ 鳥取県琴浦町
- (株) デマンド 鳥取県琴浦町
- (株) コーアツ 鹿児島県肝付町

⑤Local-DXの推進—世代を超えたICTプログラミング教室

ICTリテラシーギャップの解消に沖縄県沖縄市の'HANAわらび'で大人と子どものペアリング学習を実施した。

大人と子どものペア60組に対して、IchigoJamを使って8名のボランティアが指導した。その結果、参加総数大人74名、子供97名を対面で行うことが出来た。KPI スクール開催4回(3回)、参加者171名(30名)

アウトカムと課題

2021年10月開校の'おきなわ熱中小学校'開校時に県外の生徒を多数獲得して、ネットも含めたプログラムとして企画された。深刻なコロナの状況下、県外の生徒の集まりが少なかった。その為、県内の親子のペアでのイベントへの参加等を行ってプログラムの有用性を検証した。コロナ禍の落ち着きを見てから再度県外の生徒の関係人口化メニューとして継続したい。

⑥Local-DXの推進—キッズイングリッシュ

宮崎県小林市とシアトル熱中小学校をつなぎ、ネイティブ英語教室をZOOMで35回、参加者274名参加の親子の回を開催できた。みやざき小林熱中小学校とシアトル熱中小学校がコロナ禍終了時には修学旅行交流を行う。子供の教育を通じ、ホームステイを加えた関係を構築を図る。



⑦Local-DXハイブリッド型サイクルツーリズム

千葉県銚子市コース、高知県仁淀川コース、和歌山県太地町コースの3か所で実施した。コロナ禍でリアルな自転車ランの楽しさが失われ、実際にコースを実写した映像上でVR展開することによって、あたかも本物のコースを走り、各地を世界に発信できる'ROUVY'システムを使用して実施した。ROUVYの全世界約10万人(日本国内約2万人)の登録会員レース開催の告知を行うとともに、一時的に無料パスも発行した。

広域型バーチャルサイクリングレースの開催

レース場所	銚子	南紀	高知
開催日	11月23日	11月28日	12月5日
実距離	40.25km	27.4km	25.95km
レース参加者(日本人)	36(3)	63(13)	80(19)
参加者(1月15日現在)	1,290	1,010	3,072

銚子コース



高知県仁淀川コース



アウトカムと課題

実写コースによるバーチャルサイクリングは実用レベルのチェコの'ROUBY'を利用したが、クラウドサービスはたくさんの参加者を募れる一方で、参加者データは業者に所属して分析ができない課題がある。そこで、和歌山、高知は今後も利用者の増加に期待して、仮想レースを行ってゆくが、銚子は同じコースで実レースを行ってデータ収集を行ってゆく。

⑧広域型とかち食の熱中小学校の開催

北海道十勝エリアの'とかち熱中小学校'は十勝の自治体と持ち回り大人で社会塾を開催する広域型となっている。「食」を通じて十勝以外からの関係人口創りのために'食の熱中小学校'を企画した。8月-11月に計4回開催し91名が参加した。いずれも複数の自治体から自慢の食材の魅力を引き出したスペシャル料理を地元レストランとコラボして実施し、生産者も同席した。参加者の3分の1は道外からで同時開催のワークショップは15名が参加した。11月の最終回はライブの事前告知を徹底し、264人がライブで参加、アーカイブ配信も700回以上に達した。

アウトカムと課題

十勝は「ふるさとみつけ塾」の参加が最も多く、自治体を超えた広域を対象にしている事でインターンシップの機会が多い。生産者主体の地元では販売やマーケティングのスキルを持った人材への要望があるのと、首都圏からは雄大な十勝の自然へのあこがれがありマッチングが起きやすい。各自治体が十勝という一体感を大切にしており、十勝毎日新聞という地元紙との関係も良く、かねてから'とかち熱中小学校'の生徒も生産者、自治体職員、議員など多様な顔ぶれで学校自体の認知度が高い。毎月自治体を変えて学校を開催するワークロードの中でも経済的に自立を継続して行く為、ふるさと納税(企業、個人)との連動など自立を安定化させてゆきたい。



3.自立化・自走化の検討

項目	サステナブルキャリア研究会と「ふるさと見つけ塾」
実施体制	「ふるさとみつけ塾」のプロセスに企業向けプログラムや研究会を実施した結果、'学び'の機会を使った地方でのインターンシップのニーズはあり、費用の負担もできることが明らかになった。今後有償のプログラムに移行できる。
課題と対策	地方でのインターンシップの候補者の発掘には一般的なSNSや企業説明から、より絞り込みされたプロスペクティング体制が必要である。特定の地方に'無縁'でもあこがれている層に加えて、地元出身といった'有縁者'への効率的なアクセス方法を生み出す必要がある。地元高校や大学の卒業OBで首都圏在住の比較的若い層へのアクセスを考える。
その他の項目	「ヘルスワーケーション」については全国どこでも支援できる分析体制として各地域圏や首都圏の医大等との提携を行ってゆき、中期にわたって社員のヘルスケアを働き方改革のプログラムの一部としてビジネス化し繰り返し利用頂く。Local-DXは、「キッズイングリッシュ」、「世代を超えたICTプログラミング」は地元の運営母体で継続できる。「QRコード付き鉄道スタンプ」は既に阿武隈急行に移管した。サイクリングについては高知、和歌山は仮想上でレース実施、銚子については、リアルコース上でイベントを継続する。とかち食の熱中小学校は通常授業で継続する。

4.他地域への横展開の可能性の検討

項目	サステナブルキャリア研究会と「ふるさとみつけ塾」の今後ーふるさとデジタル塾の開発ー
事業スキーム・プログラム	各地方に'縁を持ち続ける人々'を繋げていくことによって、地方でインターンシップをしたい人材を効率的にかつ継続的に獲得する体制を'学び'のスキームで構築する。田舎がある若い世代に対する個別的、田舎独自のメッセージを継続的に発信するために、地方で大学、高校を卒業し首都圏に在住する人々をネットで'ふるさとからの生涯教育の提案'をする仕組みを創る。同時に地元学校の魅力化プロジェクトとして育ててゆく。
連携先・地域	自立のためには、初期投資には企業版ふるさと納税、運営授業料は個人版ふるさと納税等の仕組みを使う可能性があり、自治体との合意が必要である。在校生、卒業生との連絡には学校関係、インターンシップには地元企業の協力が必要になる。デジタル教育コンテンツの編集や発信体制にはCATV局やITの専門学校や高校、大学のクラブ活動との連携など、官民学の連携を民間主導で行う必要がある。
課題と対策	コロナ禍で不安定な状況だが、既に関係作りが進んでいる地域から取り組んで行きたい。インターンシップ先の多様性が重要なことから今後は地方中核都市または広域展開が必要である。

リアルな地方の大人の学校が原点

熱中小学校一覧



「ふるさとデジタル塾」

リアル授業には参加できないが
故郷が提供する教育チャンネルに参加
いつかはリアル=ふるさと回帰

先生のデジタル授業
&
地元の活躍者コンテンツ

県、自治体、学校OB組織、地元民間企業
と連携
コンテンツの全国共用は可能だが
地方に編集、発信機能を持つ
ユニークな生涯教育チャンネル